

## 後期会員募集中 今なら会費半額！ 後援会会員として一緒にクラブを応援しましょう！

栃木 SC 後援会では後期会員を募集しています。  
栃木 SC 後援会はクラブを物心両面から支えていくことを目的とした組織です。ぜひ後援会にご入会いただき、一緒にクラブをサポートしましょう！



### ●後期会員特別会費

【個人】 10,000円→5,000円(一口)

【法人】 30,000円→15,000円(一口)

### ●会期

お申込日～2013年12月31日まで

### ●お申込み方法

お申込は後援会ホームページ、または配布している申込用紙からお申込できます。

<http://tochigisc-kouenkai.jp>

### ●特典

- 1.ホームゲーム「後援会デー」へご招待(数試合)※1
- 2.栃木SCファンクラブ「クラブトッキー」への自動入会
- 3.チーム激励会への参加
- 4.会員証(口数に関係なくお申し込みの方は個人・法人ともに1枚発行)
- 5.栃木サッカークラブ後援会オリジナルステッカー
- 6.ホームゲーム当日券引き※1
- 7.後援会主催イベントへの優先的参加/後援会機関誌の送付

※1 ホームゲームのチケット販売所にて当日券購入時に後援会会員証を提示すると前売り料金でチケット購入が可能です。  
・当日券を販売しない場合もございます。  
・他割引とは併用不可。  
・割引は個人会員証1枚につきチケット1枚、法人会員証1枚につきチケット3枚まで適応になります。

### 【追加特典】ホームゲーム開催時、法人会員様ご招待エリア設置(駐車場付き)

- ・グリーンスタジアム SS 席に毎試合 10 席分のご招待エリアをご利用頂けます。  
(場所は指定されたシートとさせていただきます。)
- ・毎試合ごとにサブグラウンド駐車場がご利用頂けます。(台数限定)

◆ご利用には事前申込みが必要です。  
栃木サッカークラブ後援会 事務局 担当：深澤、丸井 まで  
TEL.028-600-3475 FAX.028-600-3476  
なお、法人会員様専用シートおよび駐車場台数には、数に限りがございます。  
先着順とさせていただきます旨、あらかじめご了承ください。  
ぜひこの機会に、多くの仲間をお誘いあわせのうえ、栃木 SC ホームゲームにお越しいただき、シーズン後半を戦い抜く「栃木 SC」への熱いご声援をお願い致します。

### 注目のシーズン後半戦もスタジアムで応援しよう。

■日程は変更になる場合がございます。

節	日時・キックオフ時刻	対戦相手	開催予定会場	スコア
2 6	9月11日(水) 19:00	愛媛FC	栃木県グリーンスタジアム	-
3 3	9月15日(日) 18:00	コンサドーレ札幌	栃木県グリーンスタジアム	-
3 6	10月6日(日) 13:00	ガンバ大阪	栃木県グリーンスタジアム	-
3 7	10月20日(日) 13:00	東京ヴェルディ	栃木県グリーンスタジアム	-
4 0	11月10日(日) 13:00	ギラヴァンツ北九州	栃木県グリーンスタジアム	-

### 編集後記

シーズン前半戦で開催したイベントには、多くの後援会会員の皆様、そしてファン、サポーターの皆様に参加して頂きました。地域とクラブを結ぶ架け橋としても多くの皆様に協力して頂き、あらためて「栃木のチカラ」

を実感することができました。シーズン後半戦に突入。後援会会員の皆様と栃木SCを盛り上げるべく、さらなる積極的な活動をしていきたいと考えております。今年こそ、「J1昇格!」。 栃木SC後援会 幹事会



栃木サッカークラブ後援会会報

SC EXPRESS

発行 栃木サッカークラブ後援会事務局  
〒320-0024 栃木県宇都宮市栄町 1-15  
栃木県開発センター 4 階  
TEL 028-600-3475 / FAX 028-600-3476  
<http://www.tochigisc-kouenkai.jp/>

# SC EXPRESS

2013  
Vol.04  
創刊第4号

ファン・サポーターと  
SCをつなぐ情報誌



TOCHIGI  
SOCCER CLUB

©2009 TOCHIGI SC



# Tadatoshi Ishizaki

栃木サッカークラブ後援会 会長 石崎 忠利

“感動！”今こそ、一枚岩！

栃木SCのJリーグ昇格に期を同じくして、栃木サッカークラブ後援会は設立し、今年度で5シーズン目に入りました。そして、2013年シーズンも折り返し点を過ぎた現在、我らが栃木SCは、チームを率いて5年目、不退転の決意で臨んだ松田監督の陣頭指揮のもと、年々、レベルアップしている強豪チームと善戦し、全力で争いを展開しております。

しかしながら、善戦しつつも、なかなか白星を得られない厳しい現状が続いております。

終盤戦に向けて、あらためて、チーム一丸となり、最後まであきらめずに全力で戦い抜いていただき、次のステップへ駆け上るためには、県民ひ

とりひとりのさらなる応援意識を盛り上げることが必要不可欠であります。

栃木サッカークラブ後援会は、栃木SCがスポーツを通じて県民に夢を与え、ホームタウンでのまちづくり運動や地域貢献活動に邁進できる応援団として、より一層、物心両面の支援活動の輪を県内全域に拡げていきたいと考えております。

このような現状だからこそ、栃木SCが今年度のスローガンである“感動！”そして、愛する地域に笑顔と元気を！を与えられるように、頼りにされる支援を全力で続けます。

皆様のご理解とさらなるご協力をお願いします。今こそ、一枚岩！しかありません。

# Masashi Nakatsu

(株) 栃木サッカークラブ

代表取締役社長 中津 正修

2013シーズンは『感動！』をクラブスローガンに掲げ、日頃より栃木SCを応援いただいているすべての皆様へ栃木SCの試合や活動を通じて大きな感動をお届けできるよう全力で取り組んでおります。プロサッカークラブとしましては、試合に勝つことが、勝利の県民歌を歌うことが、皆さんと共有できる最高の感動です。それには、選手がピッチ上で最後まであきらめない全力プレーをし、応援している皆様に興奮していただけるように、シーズン終盤の試合を必死になって闘うことを誓います。

Jリーグで導入している「クラブライセンス制度」により、スタジアム観客席の増設やトレーニング施設の整備など、Jクラブとして栃木SCが

クリアしなければならない課題は山積しております。これらはライセンス取得のために必要であることはもちろんですが、より感動していただくためには観戦環境の充実を図ることも必要で、栃木県のスポーツ文化の振興や、地域の皆様が集う交流の場や機会の創出という観点からも、環境整備はクラブが担う最大の責務であると捉えております。ただし、これはクラブの力だけでは実現は不可能です。プロスポーツクラブとしてサッカーを通じた栃木県全体の活性化や感動のある地域づくりに向けて、精一杯努力してまいりますので、後援会の皆様におかれましては、今後とも栃木SCの活動及び選手の活躍に対し、厚いご支援と熱いご声援を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。



©TOCHIGI SC

# Hiroshi Matsuda

栃木サッカークラブ 監督 松田 浩

11試合、勝てる試合があるなか、歯車がかみ合わずに勝てずにいた長いトンネルを抜け、まずはここからです。しかし、選手はそんな状況の中試行錯誤しながら、もがき苦しみながら、常に「勝とう」という意識だけは絶やさずにいました。とりわけ31節の岡山戦がよかったというわけではなく、苦しい中我慢強く、気持ちを持ち続けたことが「勝ち」という結果に繋がったのだと思います。まずはプレーオフに入り、その中で戦い勝ち続けるということが重要になってきます。勝てずにいた11試合で、たくましくなれた部分はたくさんあります。これからの試合の明るい兆しとして、怪我人が戻ってきたということがあります。それにより、クリスティアーノが攻撃に専

念でき、チャ・ヨンファンは一つ下がってディフェンスラインからゲームメイクに参加できる、という本来の形を取り戻せます。パウリーニョも戻ってくる目途が立ち、当初36節ガンバ戦に標準を合わせていたが、それよりも早く復帰するくらい気持ちで今は取り組んでいます。苦しい時期を超えたからこそ、本来の形になった時より大きな力として動いていくことができると実感しています。今、いい形が改めて出来つつあるので、あとはひたすら残り試合勝ち続けていくだけです。後援会の方々には、勝てない中でも本当に力強い声援を送り続けていただいたことに、感謝しております。残り試合、その時いただいた声援を「勝ち」という形で返していきたいと思ひます。



©TOCHIGI SC



©TOCHIGI SC

チームを指揮して5年目の松田浩監督が率いる栃木SCは、スローガンを「J1へ」から「感動！」に一新して2013シーズンを迎えた。

「言い訳のできない陣容」（松田監督）が揃ったものの、年を重ねるごとに力の差が縮まりつつある昨今のJ2は、簡単に勝点を稼げるほど甘くはなかった。ホームで臨んだ松本との開幕戦を落としたことが、少なからずその後に影響を及ぼした。開幕5戦は1勝2敗1分。連敗することなく2節・札幌戦で今季初勝利を挙げたが、思い描いたようなスタートダッシュを切るには至らずに、多難な船出となってしまう。しかし、選手達は下を向くことはなかった。成績が伴わずに苦しんだが、試合内容に目を向ければ悲観するほどではなかったからだ。栃木の代名詞である「堅守速攻」に、昨季から取り組んでいるポゼッション（ボール保持率を上げること）を加えたサッカーは、実戦の中で着実に磨かれていったのだ。だからこそ、「自分達のサッカーができています」と自信を失うことはなかったし、その確信が心の支えになっていた。

6節・ライバル群馬戦に3-0で快勝したことが、大きなターニングポイントになった。今季初の連勝を飾ることになった富山戦では、元日本代表の三都主アレサンドロが大仕事をやってのける。終了間際に劇的なゴールを決め、遠方まで駆け付けたサポーターと歓喜を共有した。「俺達はやれる」。結果が付いてきたことで、自信は大きく膨らんだ。いよいよエンジンが掛かり始めると、松田監督が今季のテーマに掲げた「融合」が形となる。攻守が上手く噛み合い、9節・徳島戦から怒涛の4連勝。しかも、4完封のおまけ付き。いずれの試合も拮抗した展開となったが、守備陣が踏ん張り、前線がその期待に応える“栃木スタイル”がハマリだした。信頼関係が好循環を生み、連勝を引き寄せ

## 2013 シーズン

# 前半戦総括

スローガンの「感動！」を与えるためにも、今こそ一枚岩となり、総力を結集し歓喜の歌を、そして新たなステージを目指すそう

る要因となったのだ。また、途中出場からゴールを量産した、“至高のジョーカー”サビアの勝負強さも光った。

連勝でプレーオフ（3位から6位までがリーグ戦終了後、昇格の残り1枠を懸けて争う制度）に進出できる6位以内に浮上した栃木。一時は4位にまで順位を上げ、2位以内に与えられる自動昇格圏内も視野に入った。ところが、5連勝を狙った13節・愛媛戦では連戦の疲労により複数失点を許し、ボランチの高木和正が負傷。この敗戦で勢いに陰りが出始めると、16節・横浜FC戦ではキャプテンのパウリーニョまでもが怪我による戦線離脱を余儀なくされる。突如としてダブルボランチを欠く緊急事態に見舞われるも、この窮地をクリスティアーノが救った。抜群のキープ力と展開力を活かして中盤を仕切るだけでなく、ゴールを叩き出すことでパウリーニョが離脱して急降下した一昨年との違いを見せ付けた。6月に組まれたJ1経験チームとの5連戦も、1勝1敗3分で乗り切ること成功。引き分けた3試合ともあと少しで勝つことができただけに若干の後悔も残るが、主力を失った状況を考えれば悪くない結果だったと言えるだろう。その証拠にプレーオフ圏内の6位を確保し、前半を折り返すことができたのだ。一度も6位以内に食い込めなかった昨季に比べれば、上位争いを演じられた前半戦は十分にサッカーの醍醐味を提供することができた。

ただし、まだスローガンにある「感動！」を与えられてはいない。なぜならば、真の「感動！」はJ1昇格が達成されてこそ、初めて味わえるものだからだ。悲願達成に向けて栃木は総力を結集し、怯むことなく自分達を信じて、リーグ後半戦も大混戦のJ2に挑む。起伏に富んだ道程を“一枚岩”で乗り越え、必ず輝かしいステージに辿り着こう。そして、歓喜の「県民の歌」を響かせよう。



©TOCHIGI SC



©TOCHIGI SC



©TOCHIGI SC

# 悲願達成に向けて総力結集



# 栃木愛

2013 チームキャプテン

## パウリーニョ

キャプテンマークを巻いて  
2年目のパウリーニョ選手。  
度重なる怪我と戦いながらも、  
熱いキャプテンシーでチームを鼓舞。  
後半戦への想いを語った。



「毎日のリハビリを通じて、怪我の状態は日に日に良くなっていますし、自分自身その実感を得る事で、自信をつけることが出ています。トレーナーはじめ、沢山の方々が本当に自分の為に力を注いでくれています。そういった自分を取巻く周囲の人達へ感謝しながら、自分も100%の力を発揮してリハビリに励んでいますし、1日でも早く復帰することを考えながら頑張っています。



リーグ前半戦は、自分達のサッカーを全員で表現することが出来ていて凄く良かったと思っています。ただ、サッカーでは人生同様、良いときと悪いときがあるものです。大切なことは今自分達が置かれているような厳しい状況を可能な限り早く切り抜けることです。(8/11現在) 9試合連続で勝利が無い状態は、このチームとしては普通ではありませんし、今我々はそれほど苦しい状況に立たされていますが、それをひっくり返すだけの力も大いに持っています。ここで流れを逆転させて、また前半戦のように全員で自分達のサッカーをピッチ上で表現し、上位をキープしていくことが大切だと思っています。



## No.7 PAULINHO

いつも皆さんにお願いしているように、最後まで決して諦めないでください。自分達が目標を達成させる為には、皆さんの応援が必要です。サッカーにはこうした暗く険しい時期が必ずあるものなのです。自分が怪我で戦線離脱したことは、チーム不調の大きな要因では決してありません。この苦境は私たちの力で必ず乗り越えることが出来るのです。信じて応援してください。自分がピッチに戻ってプレー出来る日を皆さんが心から待っていてくれることを確かに感じていますし、皆さんの応援は僕がリハビリに向かう力にもなります。だから、これからも変わらず熱き声援を宜しくお願いします。必ず皆一緒にJ1に昇格しましょう。」



## 廣瀬浩二選手

KOJI HIROSE

No.8

「(8/11現在で) ここのところ流れが悪いですが、この状況を自分達で乗り越える為に、もがきながらもしっかりチームとして前に進んでいかなければなりません。しかしながら、目標であるJ1昇格を果たす為には、今の時期を大切にする必要すらあると思っています。きっとこの苦境を乗り越えることが、チームとしても、個人としても成長の糧になってくれるはずだと考えるからです。

昇格の可能性が消えてしまった訳では決してありませんし、自分達は最後まで諦めずに闘い続けていきます。一つのゴール、一つの勝利が上昇気流に乗っていくきっかけになるはずです。自分達がやるべきこと、出来るこ

とをしっかり考えながら、サッカーに向き合っていくことが大切だと感じています。

自分が栃木SCに加入して早4シーズン目を迎えますが、栃木SCを取巻く環境は年々良くなっていると感じています。また、それは皆さんのバックアップがあつてこそだと思っています。皆さんがこのクラブや選手達に抱く願いや希望を常にしっかりと感じながら、これからも毎試合全力で戦っていきます。そして、何よりも『勝利』をもってこの感謝の意を表していきたいと思います。1試合でも多く勝利して、J1に昇格出来るように僕達も全力で戦いますので、これからも熱き声援を宜しくお願いします。」



前期MVPノミネート選手

## 前半戦を斬る



## 當間建文選手

TAKEFUMI TOUMA

No.6

「昇格を目指す中で、今の順位(14位・8/11現在)にいることを不甲斐なく思います。ただ、自分達を信じて応援し続けてくれる方が一人でもいる以上は、可能性が0になるまで闘い続けなければならないと感じながら日々トレーニングに励んでいます。

栃木のサッカーは失点を0に抑える“堅守”がベースになければなりません。ここまでの闘いを振り返れば、自分達の小さなミスから失

点を生んでしまった試合が幾つもありました。DFの選手であることから、自分自身非常に責任を感じています。練習からもっと厳しさをもち、一つ一つのプレーの質を追求していかなければならないと感じています。

最後まで諦めずにチーム一丸となって闘いますので、皆さんも最後まで僕達と一緒に闘ってください。宜しくお願いします。」

## 榎本達也選手

TATSUYA ENOMOTO

No.37

「(8/11現在で) 順位は2ケタで昇格争いから少し離れている状況ですが、まだ全てが決まったわけではありません。プロである以上可能性のある限りJ1昇格に挑戦するというのは当然の事で、皆様の声援に応える事が残り試合を闘う上で選手が果たすべき責務です。

また、地域密着を目指すクラブとしては、

ご支援いただいている皆様とクラブ・選手がお互いをリスペクトし合いながらコミュニケーションをとる事が大事だと思っています。ファン・サポーターの方々なくしてクラブの存続はあり得ません。後援会の皆様にはこれまで以上に声援いただけるとありがたいですし、クラブ・選手は目標に向かってしっかり闘っていくことを約束します。」





YUZAWA Yosuke



### 湯澤洋介 選手

日光出身、鋭いドリブルを武器とする湯澤洋介選手。プロとしての道を歩み始めた彼に、子どものころの話やプロになってから感じたこと、チームの印象など、質問に答えてもらいました。

湯澤洋介選手に質問！

**Q1** プロになって一番驚いたことは？  
 アマチュア時代には大勢のサポーターがいる前でプレーしたことがなかったため、地域の方に応援されているなど感じますし「これがプロなんだな」と。プロデビュー戦でも、イベントに参加した時にも感じましたね。

**Q2** いままで経験したポジションは？  
 小学生の時から常に攻撃的なポジションで、高校2年生までFWでした。それから3トップや中盤の左をやることが多くなりましたね。サイドバックは自分には不向きなのかなと思いますけど、やれと言われればやります。

**Q3** 栃木SCの印象は？  
 先輩はかりの環境なので難しい部分もありますね。先輩方に面倒を見てもらっていると、私もいろいろと、僕には言いやすいんですかね？ 常にいじられています(笑)でも、みんなにかわいがってもらっていますよ。


**Q4** 自分の性格をひと言で言う？  
 一言で言えば、やんちゃ坊主！本能的とか、感覚で動くタイプなので失敗も多いですね。でも、こう見えて実はネガティブだったりするんですよ。情に弱くて涙脆い一面もあります。映画でも泣きますからね。

**Q5** どんなプレーが好き？  
 相手を抜き去るドリブルには自信があります。中に切れ込んでのシュートだったり、もっと自分の得意な形を試合の中で数多く出しているようにしたいですね。今、磨いているクロスの精度も上げたいと思っています。

## 注目の新加入選手インタビュー

# Special Interview

SANTOS Alessandro



### 三都主アレサンドロ選手

『栃木SCをJ1に連れて行きたい』という想いを掲げ、栃木SCの仲間入りをした三都主アレサンドロ選手。元日本代表と言う輝かしい経歴を持つ三都主選手。サッカーに対する想いや彼の人柄が垣間見える回答に注目！

三都主アレサンドロ選手に質問！

**Q1** 栃木県の印象は？  
 少しずつ感じてくる部分はありますが、温泉や自然が多い印象はあります。これからさらに栃木の魅力を感じていければと思います。

**Q2** 自分の好きなポジションは？  
 ウイングだった清水時代はあまり守備をせずに攻撃がメインでしたが、代表で守備の重要性を知りました。ウイングバックは攻撃も守備もするポジションだし、ウイングバックでプレーする時間も長かったから好きですね。そのおかげで攻守の大切さを学びました。

**Q3** ④トレーニング法を教えてください！  
 目の前の練習を常に全力で、一所懸命やることに尽きるとしています。

**Q4** 座右の銘は？  
 Vencer, vencer, e vencer (勝つ、勝つ、そして勝つ) 日々のあらゆる勝負に勝利し、壁を乗り越えるという思いが、自分の中にはあります。

**Q5** 栃木SCの伸びしろは？  
 まだまだ若いチームなのでさまざまな面で成長ができると思います。少しずつ練習環境や試合環境も改善されてきています。栃木県民が栃木SCを愛せるような雰囲気を作ることも大切ですね。チームとファン・サポーターがともに成長していく必要もあると感じます。

## 2013年度スタート アシストクラブ特典イベント開催

### NEWS 01

今年から設立されたアシストクラブ特典イベントの第一弾として実施、選手の協力もあり終始盛り上がりを見せる食事会となりました。参加選手の菅選手と三都主選手はイベントにも慣れている様子で、コミュニケーションも円滑にとれている様子でした。参加者のアシストクラブ「愉快的ボランチ」の方たちは、いつもホームゲームでボランティアスタッフとしてお手伝いいただいている方も多く、普段は観戦する機会が少ない中、ピッチ上で闘っている選手と懇談出来ることに感謝している様子でした。



## ジュニア・レディースへ寄付金贈呈

### NEWS 02

トッキー募金よりジュニアとレディースに向けて、寄付金の贈呈を行いました。トッキー募金とは『栃木SCのアカデミー育成』『専用クラブハウス、練習場の確保』を主軸にクラブの後方支援を行う目的で設立された募金活動です。サッカーを通じて、青少年の健全育成を図ると共に、県内サッカーの発展に寄与することで、地域の方により多くの感動と夢を与えることに繋がると考えています。近い将来J1昇格、そして日本一のクラブに飛躍できるよう、こうした資金面でのバックアップも行っています。  
※集まった資金は栃木SC後援会事務局で責任を持って管理しております。上記の目的以外では使用されることはございません。



## 第3回パブリックビューイング開催 栃木SC vs ギラヴァンツ北九州

### NEWS 03

4月28日(日)、オリオンスクエアにて、栃木サッカークラブ後援会主催の「スカパー presents 第3回パブリックビューイング 栃木SC vs ギラヴァンツ北九州」が開催されました。中継が始まり、大型モニターに選手が映し出されると、ファン・サポーターは大興奮。ながらスタジアムのような光景が広がりました。当日はとちまるくんを筆頭に、各地からゆるキャラが参加会場を盛り上げました。その他にもステージではT!PSやジェリービーンズのライブもあり、大興奮。普段あまり見る機会の少ないアウェイでの戦いを観戦し、さらに勝利を見届けたことで、多くのファン・サポーターの表情は満足感であふれていました。

